

シンガポールのヘルス・プロモーション・スクールの特徴

吉田由美 岡田加奈子

(Yumi YOSHIDA Kanako OKADA)

【要約】

《目的》本研究の目的は、シンガポールのヘルス・プロモーション・スクール（HPS）の特徴を明らかにすることである。

《方法》シンガポール政府ヘルスプロモーション庁（HPB）並びにヘルス・プロモーション・スクールの見学と情報交換、学会参加時の情報交換、関係機関のホームページ等の情報を用いた。

《結果》シンガポールにおけるHPSの特徴について、①枠組と審査、②HPS推進を支えるシステム、さらに具体的な側面として③子ども、教職員、保護者に対するプログラムに関して、明らかになった。

《結論》シンガポールではHPSについてWHOの理念に基づいて、審査システムを立ち上げ、HPBが主導し教育省、社会・家族の発展省と協働して積極的に、きめ細かく推進している。初等教育学校、中等教育学校等用のHPS審査には実績がある。また、子どもだけでなく、教職員、保護者へのサービスが充実しており、重要と考えられた。

キーワード：シンガポール ヘルス・プロモーション・スクール 審査システム

I. はじめに

世界保健機関（WHO）のヘルスプロモーションの概念が学校保健分野に導入され、ヘルス・プロモーション・スクールまたはヘルシースクールと呼ばれ、ヨーロッパ、アメリカ、アジア（中国、香港、台湾、シンガポール等）で展開されている。ヘルス・プロモーション・スクール（以下、「HPS」とする）とは「そこで、過ごしたり、学んだり、あるいは働いたりする環境をどのように健康なものにしていくかについて、絶えずそのもてる力を強化しつづけるような学校」である^{1,2)}。また、機能的側面としては「学校を中核として地域社会や家庭との連携のもとに、包括的にすすめる総合的な健康づくり」³⁾とされており、有効な戦略と考えられる。日本の場合、当時の文部省が公式文書で初めて、ヘルスプロモーションを使用した

のは1997年の保健体育審議会答申⁴⁾であるとされている⁵⁾。しかし、理念としては紹介されたが、政策として具体的な取り組みがされてきているとは言いきれない。そして、諸外国では始まってきているHPSの認証システムは日本においては、まだ存在していない。

我が国では、これまでに上海⁶⁾ 香港⁷⁾ や台湾^{8,9)} のHPSの特徴に関する研究はされてきているが、シンガポールのHPSに関する研究^{10,11)} は少ない。そこで、本稿ではシンガポールにおけるヘルス・プロモーション・スクールの特徴を明らかにすることを目的とした。

方法としては、①現地施設見学と情報交換¹²⁾ — 2013年8月にシンガポール政府ヘルスプロモーション庁（Health Promotion Board 以下、「HPB」とする）、並びに、HPBより紹介されたHPS表彰園校である保

育所・幼稚園 (Ministry of Manpower Preschool) と初等教育学校 (MacPherson Primary School) を見学し、情報交換を行った。②学会 (2012年5月の第2回アジア太平洋ヘルスプロモーション健康教育学会 (APHPE) (台湾 台北市)、2013年10月の第4回ヘルス・プロモーティング・スクール・ヨーロッパ会議 (デンマーク王国 オーデンセ市) 等での情報交換、③関係機関のホームページ等の情報を用いた。

II. シンガポールの概要

シンガポールの人口540万人 (うちシンガポール人・永住者は384万人) (2013年9月) で中華系74%、マレー系13%、インド系9%、その他3%と民族的に多様である¹³⁾。国土面積は約700km²で東京都23区 (621km²) に近い大きさの島国である。日本は人口約1億3千万人、約38万km²である。人口は36分の1、国土は543分の1である。東京都23区の人口は895万人 (2013年1月) であり¹⁴⁾、人口密度は約14000人/km²である。シンガポールの人口密度は約5000人/km²であり、東京都23区のおよそ3分の1に当たる。人口の16%は15歳以下であり、乳児死亡率は出生1000対2、平均寿命は男性80.2歳、女性85.1歳 (2012)¹⁵⁾ に反映されているが、ヘルスケアシステムは総合的であり、交通の便は良い¹⁶⁾。シンガポールでは、個人の人権や利益よりも社会の安定と秩序の確立が優先されており、経済発展の鍵と考えられている¹⁷⁾。表1にシンガポールの概要を示した。

シンガポールでは2003年に6年間の初等教育が義務教育とされたが、政府は4年間の中等教育までの

10年間の教育課程を履修させることが望ましいとしている¹⁸⁾。シンガポールの教育体系での一般的な進路は、初等教育 (6年間)、中等教育 (4~5年間)、大学準備教育 (2年間) から大学 (3~4年間) というコースと、初等教育、中等教育の後、専門教育 (3年間) または、技能教育研修所 (1~2年間) というコースである^{18,19)}。教育の特徴として、①初等教育からの英語と母語 (華語—主としてシンガポールなど東南アジアで用いられる中国語の標準語、マレー語、タミル語) による2言語教育 ②学習者の能力を生かすための複雑多岐な教育システム ③女子の高等教育への高い進学率 ④ITを積極的に取り入れたカリキュラムが挙げられている²⁰⁾。①の2言語教育は民族的多様性の反映であり、②の複雑多岐な教育システムは初等教育中期より、高等教育にかけて、段階的な試験が実施され、その成績によって、自らの能力に合ったコースへ進む²⁰⁾ ことを意味している。能力別の教育とエリート養成が行われている。

III. 現地での施設見学の概要

現地での見学施設を表2に示した。

1. Health Promotion Board の概要

HPBは2001年4月に保健省の改組により、国民健康教育部門、栄養部門、学校保健サービス部門、学校歯科サービス部門、プライマリーヘルス部門の機能を集約し²¹⁾ 法定機関として個別法によって設立されたヘルスプロモーションに関する専門機関であり¹⁸⁾、保健省が管轄している。理念は「健康な国民の国家」

表1 シンガポールの概要

1	人口	約540万人 (うちシンガポール人・永住者は384万人) (2013年9月) 中華系74%、マレー系13%、インド系9%、その他3%
2	面積	約716平方キロメートル (東京23区と同程度)
3	人口密度	5000人/km ²
4	学校制度	①初等教育 (6年間)、中等教育 (4~5年間)、大学準備教育 (2年間) から大学 (3~4年間) のコース ②初等教育、中等教育の後、専門教育 (3年間) または、技能教育研修所 (1~2年間) のコース
5	教育の特徴	①初等教育からの英語と母語 (華語、マレー語、タミル語) による2言語教育 ②学習者の能力を生かすための複雑多岐な教育システム ③女子の高等教育への高い進学率 ④ITを積極的に取り入れたカリキュラム

備考：文献13)、18)、19)、20) より作成

表2 現地での見学施設

見学年月日	2013年8月20日（火曜日）	
見学施設		
1	シンガポール政府ヘルスプロモーション庁（Health Promotion Board）	
2	MacPherson Primary School（初等教育学校）	HPS 金賞受賞校
3	Ministry of Manpower Preschool（保育所・幼稚園）	HPS 合格校

備考：HPSはヘルス・プロモーション・スクールの略である。

である。課題は健康の主体として個人が力をもつことによって健康の向上を図ることである。HPBは7つの部門から構成されている。直接サービスは成人の部門2つと子ども部門に分かれている。他の4部門は研究やIT部門で直接サービス部門をサポートしている。

HPBは1つのビルになっており、中には付設のクリニック、学校歯科センター、健康情報センター、健康教育施設（ヘルスゾーン）等がある。学校歯科センターはブースが30以上あり、待合室には大きな歯型の模型があり、健康教育が行われている。また、新型歯ブラシ（3面ブラシ）の考案がされていた。担当者は歯の状態が統計的に改善したと活動の成果を強調していた。健康情報センターでは様々な健康教育用の教材が置かれており、貸出しされている。健康教育施設はいくつかの企業の出資でパネルや展示物等が設置されていた。数部屋がテーマ毎（食育、歯科保健、メンタルヘルス、エイジング、薬物依存等）になっており、初等教育学校用のプログラムや中等教育学校用のプログラムも用意されており、グループでも利用できるようになっている。

2. MacPherson Primary School（初等教育学校）²²⁾の概要

シンガポールの東部に位置し、高層の公営住宅と工業地域にある。地域内にMRT（電車）の駅がある。1966年に開学した歴史あるシンガポール政府立の初等教育学校であり、ヘルス・プロモーション・スクールの表彰制度である CHERISH Award で金賞を受賞した学校である。在校生は学校周辺の住民で、経済的に困難な家庭の子どもも含まれている。授業は2部制で、午前は1年生から3年生、午後は4年生から6年生となっている。児童数は840人、教職員は80名である。児童には年間3か月間の休みがある。

子どもの発達支援方針として、学方面、身体面、道

徳面、社会面、審美面の5つが設定されている。其々の目指す児童像は、自主的な学習者、自分の健康を守り、回復力のある者、他者への共感と尊重ができる市民、チームメンバーとして、またリーダーとして活動的に貢献できる者、人生での高潔さを正しく認識できる者である。学校の理念は、①一人一人の児童全員が大切である ②一人一人の教職員全員が宝である ③それぞれの保護者は全員がパートナーであるとされている。養護教諭に相当する職員はいない。体調不良時に休むためのベットのある小部屋が準備されていた。歯科クリニックや放課後保育施設、リラックスできるコーナーのある図書室、子ども用PC室などが設置されていた。

3. Ministry of Manpower Preschool（保育所・幼稚園）の概要

人的資源省の職員の子ども専用の Preschool で、人的資源省の建物の1階に併設されている。市街地のビル街にあり、運営はKinderland という創立35年の伝統ある幼児教育会社が担っている。年少児は保育所、年長児は幼稚園（1日3時間）に属し、年長児でさらに保育の必要な子どもは延長して預かっている。保育室・教室6室、音楽室、調理室、トイレ、プレイルーム、園庭などがある。在籍者数88名、職員13名（園長1、教員10、調理1、事務1）である。中国語と英語の2か国語対応の施設である。給食は朝食、昼食、おやつである。ヘルス・プロモーション・スクールとして認定された施設である。

IV. シンガポールのHPSの枠組と審査

1. HPSの枠組

シンガポールでは、国家の政策としてHPSを積極的に組織的に推進している。特に、初等教育学校、中

等教育学校等に於いては、9割以上が審査に参加しており、その9割がHPSとして認められている状況にある²¹⁾。シンガポールにおけるヘルス・プロモートイグ・スクールの枠組みの6つの概念はWHOのモデルと一致する①学校健康政策 ②学校の物理的環境 ③学校の社会的環境 ④コミュニティとの連携 ⑤健康な生活のための行動能力 ⑥ヘルスケアと健康増進サービスである²¹⁾。シンボルとして、大木の6つの大きな枝としてイラスト化されており、見学時にはHPBの玄関ホールにも大きな看板が設置されていた。

2. HPSの審査

シンガポールでは、HPBがCHERISH Award システムを立ち上げた¹⁶⁾。現在は各学校でのHPSの取り組みへの努力に対して、審査基準を設けて、審査し学校種別によってプラチナ賞、金賞、銀賞、銅賞を授与したり、合否判定を実施している。

シンガポールのHPS審査名にはCHERISH が使われ

ている。CHERISH (チェリッシュ) は Championing Efforts Resulting in Improved School Health の略である。校種別に2つの審査がある。初等教育学校、中等教育学校等を対象としたCHERISH Award、就学前教育である保育所、幼稚園が対象であるCHERISH Junior Awardである。大学等を対象としたCHERISH IHL (Institutes of Higher Learning の略) は構築中である²¹⁾ ため、本稿では前2者について述べる。表3にCHERISH AwardとCHERISH Junior Awardの比較を示した。

(1) CHERISH Award

最初に制度化されたのはCHERISH Award で2000年に初等教育学校、中等教育学校で開始され、2003年からは大学準備教育学校(2年制)等が対象となった。当初は1年サイクルであったが、2006年からは2年サイクル、2012年からは3年サイクルのアセスメ

表3 CHERISH Award とCHERISH Junior Awardの比較

項目	CHERISH Award	CHERISH Junior Award
理念	WHOのヘルス・プロモートイグ・スクール (HPS) の理念に基づいている。	
主催	シンガポール政府 (ヘルスプロモーション庁 (HPB))	
創設	2000年	2010年
対象	初等学校 (6歳~11歳)・中等学校 (12歳から4~5年間) ジュニアカレッジ (2年間) 等の全学校 (不参加は届出る)	保育所・幼稚園の全所・園 (不参加は届出る)
審査サイクル	3年間 (現行)	2年間 (現行)
審査方法	書類と実地審査	書類と実地審査
審査結果	プラチナ賞、金賞、銀賞、銅賞 CHERISH Award 2012 (2012) 結果 プラチナ賞 12校 (3.8%) 金 賞 16校 (5.1%) 銀 賞 150校 (47.9%) 銅 賞 135校 (43.1%) 計 313校 (100.0%) 対象学校総数 362 参加校 344校 (95.0%) 受賞校 313校 (参加校の91.0%) (対象学校総数の86.5%)	合格、不合格 CHERISH Junior Award 2012 (2012) 結果 合格校 (園) 94校 対象保育所・幼稚園総数 約1700 受賞校 (園) 94校 (対象保育所・幼稚園総数の6%)

備考: CHERISH (チェリッシュ) は Championing Efforts Resulting in Improved School Health の略である。

ント（評価）である。2012年から2014年の学校の実績に対して2015年に結果が発表されることになっている。自己評価用のアセスメント基準の枠組みは①教育課程、教育、学習 ②学校組織、特性、環境 ③コミュニティとの連携とパートナーシップであったが、現行の「CHERISH Award 2015」では ①学校組織、特性、環境 ②教育課程、教育、学習 ③パートナーシップとサービス ④評価である²³⁾。受賞ランクは、プラチナ賞、金賞、銀賞、銅賞の4つである。原則、国内の全校参加で不参加の場合は届け出が必要となる。前回の審査である「CHERISH Award 2012」では全362校（初等教育学校、中等教育学校、大学準備教育学校等）の内、344校（95%）が参加し、プラチナ賞12校（3.8%）、金賞16校（5.1%）、銀賞150校（47.9%）、銅賞135校（43.1%）が受賞した。参加校中313校（91%）が受賞したことになる²¹⁾。

現行の「CHERISH Award 2015」の提出書類は1. 自己評価票（①学校組織、特性、環境 ②教育課程、教育、学習 ③パートナーシップとサービス ④評価）2. 学校ヘルスプロモーション計画（8ページ以内）3. 実施報告書（6ページ以内）で提出先は政府のHPBとなっている²³⁾。

審査は書類と実地審査が行われる予定となっている。審査規準は、プラチナ賞 ①金賞の連続2回以上の受賞 ②児童生徒と教職員のためのヘルスプロモーションプログラムの3年以上の成果 ③保護者や地域の人々の健康への効果 ④他の学校との実践成果の共有 ⑤肥満に関する改善である。金賞は①総合的の学校ヘルスプロモーション計画の統合的計画、実施、評価 ②学校における健康的な食事のプログラムの必要条件の達成 ③ヘルスプロモーションでの影響力あるパートナーシップの評価 ④肥満に関する改善 ⑤環境の改善である。銀賞は①学校ヘルスプロモーション計画 ②学校ヘルスプロモーションプログラムの計画、実施、評価 ③ヘルスプロモーションでのパートナーシップの評価である。銅賞は①学校ヘルスプロモーション計画 ②学校ヘルスプロモーションプログラムの計画、実施、評価である²³⁾。

CHERISH Awardの限界と課題は、Vaithinathan. et.al¹⁶⁾によると、以下のようなものである。①学校での計画、開発、実行、そしてヘルスプロモーション構想の再検討の時間の不足 ②学校での“リスクのある”そして“良くない”グループの同定と対処の困難さ ③

学校は実行の難しい再検討となる可能性のある評価についての努力をしながらないので、ヘルスプロモーション庁はこの面での教師の能力を高める時間をもう少し増やすこと ④学校群の組織的な評価を実行するための更なる努力の4つである。現場での意欲、アセスメント能力、評価力、実行力と時間不足が課題となっていた。その後、各学校の意見やアセスメント方法の再考を経て改善が行われ、書類を簡潔化し、2年から3年へサイクルの変更が行われた。

現在の課題はHPB²¹⁾によると①参加率が100%に近づいており、次の段階に入ること ②プロセスから成果へのシフト ③金賞やプラチナ賞の受賞校が他の学校に助言できるシステムの構築 ④審査基準を再検討し、妥当性を確実にすることである。

(2) CHERISH Junior Award

CHERISH Junior Awardは就学前教育である保育所、幼稚園が対象である。HPBと社会・家族の発展省（Ministry of Social and Family Development）が連携して認証している²¹⁾。2010年から始まり、2年サイクルである。現行の「CHERISH Junior Award 2014」は2012年1月から2013年12月までの学校健康政策と活動の実績に対して、2014年に結果が発表される。アセスメント基準の枠組みは①学校健康政策 ②学校の物理的環境 ③学校の社会的環境 ④コミュニティの巻き込み ⑤健康な生活のための行動能力 ⑥予防と増進サービスである。受賞にはランクはなく、合格または不合格である。

見学したMinistry of Manpower PreschoolでのHPSとしての特徴は①環境に力を入れており、けが防止のために家具などにプロテクターを付けるなど安全面の配慮をしている。②栄養バランスを考えた食物を提供している。例えば、朝は通常の牛乳を提供し、昼には各々の子どもの嗜好に合わせた栄養強化ミルクを提供している。③毎月、身長、体重を測定し、発育状態を評価している等である。CHERISH Junior Awardの合格はそんなに難しいものではなく、適切にやっていたら、獲得できるということだった。スクールナースや看護職はいないが、0歳児の居る保育所では看護師が配置されている所もあるとの事だった。救急処置については3日間コースの研修があり、教員が受けている。体温測定は登園時と昼に実施し、体調不良の時は家族が迎えに来る事になっている。

CHERISH Junior Awardの限界と課題は、HPB²¹⁾によると①2012年の受賞校(園)は約1700校ある内の94校で6%と低率であること ②就学前学校は全て私立で開校、閉校が多く把握が困難なことである。

V. HPS推進を支えるシステム

1. HPB(保健省管轄)が主導し、教育省、社会・家族の発展省と協働

シンガポールでは、オタワ憲章以前の1970年代から保健省が学校で喫煙防止、栄養、運動、メンタルヘルスなどの教育に関与していた。HPSの取り組みも保健省管轄のヘルスプロモーション庁が主導して開始されている¹⁶⁾。一方、日本では学校保健のことは文部科学省が担当しており、現場での健康教育への講師派遣など、地域保健との連携は行われているが、厚生労働省が直接に関与することはない。

CHERISH Award開始時の2000年時点では、教育省は保健省のヘルスプロモーション庁の協力者の立場であったが、現在では審査自体を共同で実施している。CHERISH Junior Awardではヘルスプロモーション庁と社会・家族の発展省が共同で実施している。

2. 活動のための補助金

活動のための基金を設立して、費用を補償している。審査機構の設立から3年後にスクールヘルスプロモーション基金を設立し、CHERISH Award審査参加校に対して、1年間に5000シンガポールドル(1シンガポールドル=81円(2014年7月現在)で換算すると40.5万円)を限度として補助金が交付されている¹⁶⁾。「CHERISH Junior Award 2014」では受賞校に対して2000シンガポールドル(同 約16.2万円)の補助金を出している^{24,25)}。

3. HPBの教育的機能

HPBではCHERISH Junior Awardへの参加の打ち合わせ会や、各学校での2回のコンサルテーションなどの支援を行い、サポート体制をとっている^{24,25)}。また、学校教師に無料の訓練コースを提供している。訓練コースの内容は、「ヘルスプロモーション、ヘルス・プロモーター・スクールの理念、健康トピックス(栄養、喫煙等)」などである。具体的には、「今日の健康問題の基本的な最新情報と学校との関連」

「ヘルス・プロモーター・スクールの計画するための貴方の第1歩」などである。また、学食担当者や学食委員会のための研修を行っている。さらに、学校に対するコンサルテーションや健康教育提供者などの社会的資源に関する情報を提供している。学校での優れた実践の共有のために、会議の開催、本の出版、オンラインでの情報発信を行っている¹⁶⁾。HPBでは、いろいろな方法を用いて、ヘルス・プロモーター・スクールの実践者の能力開発を行う条件を整えて、サポートしている。

また、教師のウェルネスプログラムとして、健康的なライフスタイルのワークショップがあり、良き役割モデルとなれるように知識や技術を習得している。ポータルサイトを使いヘルスプロモーションプログラムや資源について知ることができ、最新情報が得られるようになっている¹⁶⁾。さらに、教育と能力開発は保護者、子どものリーダーを対象としても行っている。

4. CHERISH学校保健コーディネーター

初等教育学校、中等教育学校では学内にCHERISH学校保健コーディネーターがおり、HPSの中心的役割を担っている。シンガポールの学校内には養護教諭に該当する職種はなく、多くは体育教師がCHERISH学校保健コーディネーターとなっている。審査の開始時期にHPBとCHERISH学校保健コーディネーターの会議が開催される。また、必要に応じてHPBの助言を受けられるようになっている。なお、保育所、幼稚園にはコーディネーター制度はなく、所長や教員等が対応にあたっている。

VI. 子ども、教職員、保護者に対するプログラム

1. 子ども用のプログラム

子どものヘルスプロモーションプログラムとしては学校での健康診断や予防接種、学校歯科サービス(学校内歯科クリニック、移動歯科クリニック専用車、学校歯科センター)、教育課程(健康教育—喫煙防止、栄養、運動、メンタルヘルス、歯科保健、性感染症など)、ヘルスリテラシー教育などがある²¹⁾。

(1) 学校での食事

シンガポールの初等学校では学食(キャンティーン)で児童生徒が自分で選択して、朝食や昼食、飲み

物を購入している。児童生徒が健康的な食物が分かるように、メニューに指針が示されている。学食提供者側に対しては、調理には皮なしの鶏肉と赤身の肉を使用すること、毎日少なくとも2種類以上の新鮮な果物を販売することなどの食物ガイドラインが示されている。また、栄養評価やガイドラインに沿った改善を推進し、健康的な食事を準備するために栄養コンサルタント制度を採用している¹⁶⁾。

見学したMacPherson Primary Schoolの場合、学食は1階で、気候への対応と考えられるが、2方向には壁がなく、風が吹き抜ける構造で開放的であった。生徒が食品の種類毎に区分けされたコーナーから自分で主食や副菜、飲み物を選び、現金で購入し、賑やかな雰囲気の中で食べていた。価格は低く、1食約1シンガポールドル（約80円程度）以下とのことだった。経済的に困難な家庭の子どもにはクーポンが支給され、無料となる。保護者のボランティアが協力していた。地域の方が差し入れた食品のコーナーもあった。フライは週1回（金曜日）、野菜は毎日提供することだった。

一方、日本は学校給食であり、小学校・中学校・特別支援学校・夜間定時制高校の実施率は平均94.1%（2012年5月）²⁶⁾である。有料であるが、通常は児童生徒に食物の選択の余地はない。給食は学校給食法に基づいて提供されており、「学校給食実施基準」²⁷⁾の学校給食摂取基準で、6～7歳用、8～9歳用、10～11歳用、12～14歳用に分類されて、それぞれ1人1回当たりのエネルギー、たんぱく質、脂質、ナトリウム、カルシウム、鉄、ビタミン類の基準が決まっている。児童生徒には栄養バランスの良い適量の昼食が準備されている状況である。また、栄養教諭または栄養士が学校給食栄養管理者として各学校に配置されている。栄養教諭は、児童生徒へ直接指導する役割もっており、2013年4月現在で全国に4624人配置されている²⁸⁾。

シンガポールでは学校での昼食は児童生徒の食物選択の力を育成するよい機会となっている。日本ではバランスのよい昼食を全員が摂取できる利点はあるが、食物選択の力を育成する点では不利と考えられる。日本でも月に1回程度、バイキング形式の給食を採用して学習の機会を工夫している学校もある。栄養専門家に関しては、シンガポールでは栄養コンサルタントの配置は任意であるのに対して、日本では学校給食栄養

管理者が学校給食法で規定されており、充実している。

また、シンガポールでは多くの学校で朝食プログラムがあり、有料で提供されている。日本では、児童生徒の朝食欠食が問題視されているが、朝食の提供については私学などで一部実施されている学校もあるが、一般的ではない。

見学したMinistry of Manpower Preschool（保育所・幼稚園）の場合は給食制であり、子ども達には同一の食事が配膳されており、日本の一般的な保育所と同様であった。

（2）歯科保健

シンガポールでは学校内歯科クリニックや移動歯科クリニック専用車、HPB内にある学校歯科センターがある。学校内歯科クリニックでは児童生徒の歯科検診や簡単な処置が無料で行われている。入学時に保護者からの承諾書を得て実施している²⁹⁾。これら歯科保健に関する組織的な取り組みはシンガポールでの特徴と言える。

MacPherson Primary Schoolの場合は本格的な診療台を備えた歯科クリニックの部屋があった。HPBの管轄で本格的な治療はHPB内の学校歯科センターで行い、学校では簡単な処置を無料で実施しているとの事であった。

日本では学校で歯科検診が年1回あり、嘱託歯科医が担当し、治療が必要な児童生徒は一般の歯科医院などで治療を受けている。シンガポールの学校における歯科治療は利便性と確実性が保障されている。

2. 教職員用のプログラム

シンガポールで教職員の能力開発に力を入れている点については上述したが、多くの学校で、スタッフ用のスポーツ施設やラウンジが設置されており、誕生会が開催されている¹⁶⁾という。また、スクールヘルスプロモーション助成金によってスタッフのための運動プログラムに資金が提供された例などがあり、スタッフの健康への配慮がきめ細かく実施されている¹⁶⁾。

MacPherson Primary Schoolの場合、職員室は円形のフロアで各自の机と椅子が高いパーティションで区切られ、プライバシーが守られている。教員用に広くはないが、ラウンジ（休憩室）があり、テーブル、椅子、マッサージチェア、オーディオなどが置かれていた。教職員の健康については、①オーバーワークに

ならないような管理 ②公正に認めること ③専門職としての能力開発 ④リーダーシップ能力開発の4つの目標とプランを持っている。児童の健康面はもちろんだが、教職員の健康面でも計画、実施され十分な配慮がされていた。教職員が健康でなければ、良い教育はできないと考えられていた。その配慮の仕方は日本との大きな違いであった。日本では教職員の運動や休憩については個人的に対処している状況にある。

3. 保護者用のプログラム

保護者用のプログラムの目的は、①保護者が学校や家庭での子どもの健康やウェルビーイングに関心を持ち活動すること ②保護者が健康的なライフスタイルを主導し、他の保護者や自分の子どもに影響を与えることができることである²¹⁾。方法としては資料（ブックレット、パンフレット、ポスター等）の提供、講演会、ワークショップ、セミナー、体育祭、家族デイ、教師との会議、保護者サポートグループなどがある。

シンガポールでも日本でも両親は学校の活動にボランティアとして協力している。シンガポールでは多くの学校で両親グループに対して、ボランティアに自信をもってもらうために研修やコーチングを実施している¹⁶⁾。

MacPherson Primary Schoolでは保護者、地域との連携を20の団体や個人をパートナーとして実施している。食堂では保護者のボランティアが指導に当たる姿や地域の方のボランティアが働いており、協働がよく実現されていた。

VII. おわりに

シンガポールは東京23区と同じほど面積の国であり、人口規模も大きくはない。社会の安定と秩序の確立を優先している政府の管理は比較的行き届きやすい。ヘルス・プロモーション・スクール構想も政府主導できめ細かに行われている。構想が有効に機能すれば、児童生徒、スタッフ、保護者の健康度は向上すると考えられる。

シンガポールでは保健省のHPBを中心にしてWHOの理念に基づき教育省や家庭福祉関係の省と協働してHPSを積極的に推進している。HPBは助言や研修などのサポートだけでなく、HPB内のクリニック、学

校歯科センター、健康情報センター、健康教育施設などや各学校内の歯科クリニックでの直接的なサービス機能をもっている。初等教育学校、中等教育学校等用と保育所、幼稚園用の2つのHPS認証システムが機能している。特に前者のCHERISH Awardは13年以上の歴史があり、参加率は非常に高く、受賞率も高く、認証システムも改善されてきている。具体面では特に歯科保健についての取り組みに特徴がある。また、子ども用だけでなく、教職員、保護者向けの教育・能力開発サービスも充実しており、HPSにとって重要な事であると考えられる。

謝辞

ご協力頂いたシンガポール政府ヘルスプロモーション庁（Health Promotion Board）のCheong-Lim Lee Yee氏、Eugene Heng氏、Kho Ho Ping氏をはじめとする皆様方、MacPherson Primary School（初等教育学校）の校長Rostinah Bte Mohamad Said先生をはじめとする先生方、Ministry of Manpower Preschool（保育所・幼稚園）の園長Susan Tan Siok Yan先生、マネージャーChan Mei Leng先生をはじめとする先生方に深謝致します。

本研究は科学研究費助成事業（基盤研究（B） 課題番号25282204「ヘルス・プロモーション・スクール国際版認証システムの構築」 研究代表者 岡田加奈子）の助成による研究である。

文献

- 1) World Health Organization (WHO) : What is a health promoting School?. http://www.who.int/school_youth_health/gshi/hps/en/ Accessed February 2, 2014
- 2) 衛藤隆, 永井大樹, 丸山東人他: Health Promoting School の概念と実践. 東京大学大学院教育学研究科紀要 44, 451-456 (2004)
- 3) 岡田加奈子: ヘルスプロモーション. 87-97, 徳山美智子他編, 学校保健安全法に対応した学校保健 ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化. 第4版 東山書房 (2011)
- 4) 文部科学省保健体育審議会: 生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について (答申) (1997) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_hoken_index/toushin/1314691.htm. (閲覧日2014年9月23日)
- 5) 三木とみ子編: 四訂 養護概説. 第6版 61, ぎょうせい (2012)
- 6) 時代, 岡田加奈子, 砂上史子他: 上海のヘルス・プロモーション・スクールの現状~2010年視察 インタビ

- ュー並びに文献調査による分析. 授業実践開発研究 3, 73-81 (2010)
- 7) 岡田加奈子, 吉田由美他: 香港のヘルス・プロモーション・スクールの特徴. 千葉大学教育学部研究紀要 58, 317-322 (2010)
- 8) 籠谷恵, 齊藤理砂子, 三浦沙織他: 台湾におけるヘルス・プロモーション・スクール. 千葉大学教育学部研究紀要 57, 247-251 (2009)
- 9) 鎌塚優子, 展偉静, 籠谷恵他: 台湾におけるヘルス・プロモーション・スクールの概要と特徴—文献・学校視察事例調査による検討. 学校教育学研究論集 21, 141-149 (2010)
- 10) 吉田由美, 岡田加奈子, 鎌塚優子, 衛藤隆: 学校保健に関する学校表彰制度の比較—シンガポールと日本. 学校保健研究 55, suppl 245 (第60回日本学校保健学会 東京都) (2013)
- 11) 岡田加奈子, 鎌塚優子, 衛藤隆, 吉田由美, 南銀祐, 金美珠: ヘルス・プロモーション・スクールの認証・表彰制度の国際比較—日本・韓国・シンガポール. 学校保健研究 55, suppl 245 (第60回日本健康教育学会 札幌市) (2014)
- 12) 吉田由美: 海外学校訪問 シンガポールのヘルス・プロモーション・スクール訪問記. 千葉大学教育学部ヘルス・プロモーション・スクール・プロジェクト, 平成20-25年度 ヘルス・プロモーション・スクール (健康的な学校づくり) プロジェクト報告書. 41-47 (2014)
- 13) 外務省: 各国・地域情報 シンガポール共和国 (Republic of Singapore) 基礎データ. <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html> (閲覧日 2014年9月8日)
- 14) 東京都: 東京都の統計. (2014) <http://www.toukei.metro.tokyo.jp/juukiy/2013/jy13000001.htm>, (閲覧日 2014年2月2日)
- 15) World Health Organization (WHO): http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/112738/1/9789240692671_eng.pdf?ua=1 Accessed October 13, 2014
- 16) Vaithinathan. R.et.al: Singapore: Health Promoting Schools: The CHERISH Award, C. Vince Whitman and C.E. Aldinger (eds.), Case Studies in Global School Health Promotion: From Research to Practice. DOI: 10.1007/978-0-387-92269-0_22, # Springer Science + Business Media, LLC (2009)
- 17) 田村慶子: 規制と罰金 シンガポールは“fine country”!?. 田村慶子編, シンガポールを知るための62章. 第2版 明石書店 (2008)
- 18) 小松幹典: シンガポールの政策 (2011年改訂版) 教育政策編, 自治体国際化協会 (シンガポール事務所) (2011) <http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/series/pdf/j37.pdf>. (閲覧日 2014年9月23日)
- 19) 有満みゆき: シンガポールの教育制度. 財団法人自治体交際化協会 シンガポール事務所 (2009) <http://www.kibc-jp.com/hsrc/japanese.kta/report/.../2009.2report.pdf>, (閲覧日 2014年1月28日)
- 20) 合田美穂, 湯玲玲: 教育制度—学習者の素質・能力を生かす独自のシステム. 田村慶子編, シンガポールを知るための62章, 第2版 明石書店 (2008)
- 21) Health Promotion Board Singapore: Healthy Settings Health Promoting Schools (2013b) (2013年8月20日見学時資料)
- 22) MacPherson Primary School: <http://www.macphersonpri.moe.edu.sg/> Accessed September 8, 2014
- 23) Health Promotion Board Singapore: CHERISH Award 2015 Criteria, (2014a) <http://www.hpb.gov.sg/HOPPortal/programmes-article/3128> Accessed September 14, 2014
- 24) Health Promotion Board Singapore: CHERISH (Championing Efforts Resulting in Improved School Health) Junior Award 2014 Application Guidelines for Child Care Centres (2014b) <http://www.hpb.gov.sg>, Accessed September 12, 2014
- 25) Health Promotion Board Singapore: CHERISH (Championing Efforts Resulting in Improved School Health) Junior Award 2014 Application Guidelines for Kindergartens. (2014c) <http://www.hpb.gov.sg>, Accessed September 12, 2014
- 26) 文部科学省: 学校給食実施状況調査結果の概要. (2014) http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/01/1343509.htm, (閲覧日 2014年2月14日)
- 27) 文部科学省: 学校給食実施基準の一部改正. (2013a) http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/_icsFiles/afieldfile/2013/03/21/1332086_1.pdf, (閲覧日 2014年2月14日)
- 28) 文部科学省: 栄養教諭の配置状況. (2013b) http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/_icsFiles/afieldfile/2013/06/11/1257966_1.pdf, (閲覧日 2014年2月14日)
- 29) Health Promotion Board Singapore: Oral Health Care Services for Primary School, (2014) <http://www.hpb.gov.sg/HOPPortal/health-article/652> Accessed February 14, 2014

(2014年10月8日受付、2014年11月21日受理)

CHARACTERISTICS OF HEALTH PROMOTING SCHOOLS IN SINGAPORE

Yumi YOSHIDA¹⁾ Kanako OKADA²⁾

【Abstract】

Objective: To clarify the characteristics of Health Promoting Schools in Singapore.

Methods: Information was collected from the Health Promotion Board in Singapore, schools in Singapore, the European Conference on Health Promoting Schools, internet searches, etc.

Results: We describe the characteristics of Health Promoting Schools in Singapore in terms of (1) the award system, (2) the support system for Health Promoting Schools, and (3) the health promotion programs for students, school staff, and parents.

Conclusions: The award was established in Singapore by the Health Promotion Board, which is consistent with the WHO model of health promoting schools. The Board promotes this system by collaborating with the Ministry of Education and the Ministry of Social and Family Development. The award system for primary and secondary schools is working well. It is important to recognize that health promotion programs are not only for students but also for school staff and parents.

Keywords Singapore Health Promoting Schools Award System

1) Graduate School of Nursing, Mejiro University 2) Chiba University